



社名の由来

浜理薬品工業株式会社
代表取締役社長 高美 時郎



— 昨年の10月に日本ジェネリック製薬協会に入会させていただきました。浜理薬品工業は昭和23年に創業し、今年で70年を迎えます。主に原薬や中間体、健康食品の素材などを製造販売しております。会員の皆様とは同じ業業ではありますが、皆様にはあまり馴染みがない企業としますので、ごあいさつ代わりに弊社の紹介をさせていただきます。

弊社の所在地は大阪市東淀川区柴島です。「柴島」と書いて「くにじま」と読みますが、その謂われは定かではありません。JR新大阪駅から直線距離で南東へ約1km、大阪を流れる淀川の近くにありま。最寄り駅は阪急電鉄千里線の柴島駅です。阪急千里線は大阪市営地下鉄と相互乗り入れをしている路線ですが、一日の乗車人員が2000人程度のかかなりマイナーな駅です。

さて社名の由来ですが、創業時の社名は「浜理化学研究所」といいます。創業者が「理化学研究所」にあこがれていたこと、そして創業当時の町名が浜町であったことから、町名を冠して「浜理化学研究所」と命名しました。創業の地は現在の本社がある柴島で、町村合併をする前の古い町名を浜町といいます。

祖父が創業し、父が2代目、私が3代目となります。祖父は戦時中に日本軍がインドネシアで運営していたビタミンを製造する工場の工場長を務めていました。終戦後に武田薬品に復帰しましたが、その後、独立して昭和23年に弊社を創業しました。戦後の物資が不足する時代にサッカリンという人工甘味料を製造したのが弊社のスタートです。武田薬品時代の同志と協力して、苦みの素となる不純物を取り除く製造方法を開発し、この商品が、苦みが少なく味が良いという評判を得て飛ぶように売れたと聞いています。

現在、弊社には3つの工場があります。場所は大阪本社、山形県米沢市、北海道千歳市です。米沢市と千歳市の工場は100%子会社としています。主力の工場は、武田薬品からお借りしていた堺工場に始まり、大阪府高槻市の高槻工場を経て、米沢市の米沢浜理薬品工業へと移っています。高槻工場は1961年から1991年まで操業し、原薬やアミノ酸を作っておりましたが、雲が垂れ込



めるような天気の悪い日は、臭いがこもり近隣の住民からの移転要望が強いこともあって、2代目の父が米沢への移転を決めました。米沢を選んだ理由は様々な面で受け入れ態勢が良かったことですが、寒いところの方が臭いが気にならないということも考えていたようです。米沢浜理薬品工業は1981年から操業しております。この時代に浜理薬品のような関西の中小企業が東北の地に工場を作るのは珍しいことでしたが、寒いところというのが進出した理由の一つでした。米沢浜理薬品工業は米沢八幡原中核工業団地内にありますが、山形県内でも雪の多いところですよ。

チトセ浜理薬品は2013年に日本新薬株式会社から譲り受けた工場です。原薬工場と食品工場があります。食品工場では主に北海道産の野菜や果実を原料に濃縮エキスを作っています。チトセ浜理薬品は新千歳空港から6.5kmの千歳臨空工業団地内にあり、北海道の中では大変便利なところにあります。

さて、毎年2月の第2土曜、日曜には米沢で上杉雪灯籠まつりが催されます。上杉神社の周辺を会場として約300基の雪灯籠と1000個の雪ぼんぼりにろうそくが灯されます。雪灯籠は高さ2メートル、土台は150センチ四方です。土台の上にコンパネ4枚を組み立て、四角形の壁を作ります。その中に人が入り、外からコンパネの壁の中へ雪を投げ入れます。壁の中にはあらかじめ人が入っていて、放り込まれた雪を足で踏み固め、最終的に雪の四角柱を作ります。その四角柱を削って雪灯籠を作ります。雪灯籠自体はシンプルなものですが、灯が点るととても幻想的な景色です。弊社も毎年2基出展しています。

ご興味がある方は一度足をお運びください。